

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第61号 2013年12月

発行人：大野 利幸 編集長：地田 博昌 事務局長：吉本 政治
事務局：〒152-0031 目黒区中根1-15-4 Tel 03-3725-3700

2014年 新年会開催のご案内

2014年新年会を1月19日(日)目黒雅叙園にて、下記の通り開催致します。

今回は、講師に横須賀市立横須賀総合高校の初代校長を勤められた熊谷和久氏(昭和45 政経)の講演を企画しています。テーマは、『民間から見た教育現場』です。熊谷氏は、都立青山高校から早大政経学部卒。旭化成(株)を退社後、前述の民間校長として4年間勤務され、その後学校法人数校の理事、事務局長等を歴任。お仕事の合間に少年ラグビーの指導に当たられるなど、多彩なご経験をお持ちです。民間とは異なる教育現場での生のご体験をご披露頂けると存じます。

教育、人づくりの重要性が叫ばれる昨今、創立150周年を目指し、全ての分野でグローバルリーダーの輩出を目指す早稲田の一員として、絶好のテーマと思います。皆様多数のご参加をご期待し、ご案内申し上げます。

なお、懇親会には先の総会と同様、現役学生を招待しております。また、特別イベントとして早稲田大学マンドリン楽部の演奏を計画しています。

記

1. 日 時：2014年1月19日(日)16時開会
(受付開始 15時30分)
2. 会 場：目黒雅叙園(2階 華しずかの間)
東京都目黒区下目黒1-8-1
電話 03-3491-4111
JR目黒駅西口、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線目黒駅から行人坂を下って3分(権之助坂を下って5分)
3. 講 演：16時～17時
講師 熊谷和久氏
演題 「民間から見た教育現場」
4. 懇親会：17時～19時
5. 会 費：会員10,000円、ご家族5,000円
当日会場受付にてお支払い下さい。
6. 同封の返信用はがきを、12月20日(金)までにご返送下さい。

講師プロフィール



熊谷 和久氏

昭和22年3月新宿区生まれ。満66歳
昭和45年3月早稲田大学政経学部経済学科卒
昭和48年3月ヤマハ(株)を経て、旭化成(株)入社
平成10年10月旭化成エーティーホーム(株)代表取締役就任
平成14年11月横須賀市教育委員会参事
平成15年1月横須賀市立横須賀総合高校初代校長就任
平成19年3月同校定年退職。その後、学校法人数校の理事・事務局長・教員・評議員等を歴任
平成24年4月湘南教育研究所設立、代表に就任
平成25年2月より、学校法人ステパノ佐伯学園・御国幼稚園園長に就任、現在に至る

早稲田大学マンドリン楽部

1913年に創部され、今年100周年を迎えた伝統あるオーケストラです。

部員は約70名。早大のみならず他大学の学生も在籍しています。「紺碧の空」、「都の西北」を始め、素晴らしい演奏をお楽しみください。



(田島記)

各部会からの案内・報告

ウォーキング部会

今年の夏は例年に比べて異常な暑さでしたが、お体は大丈夫でしたか。長期天気予報ですが、今年の冬は寒くなりそうですね。

さて今後の予定をお知らせいたします。

皆様、お誘い合わせのうえ参加ください。

実施報告

9月例会 参加14名

都内の公園を歩く第3回

向島百花園、旧岩崎庭園、旧古河庭園

10月例会 参加9名

首都圏随一の緑地帯 見沼田んぼを歩く

11月例会 参加13名

ウォーキング部会の原点、鎌倉5山を歩く

今後の予定

12月例会

西荻窪アンティーク街から東京女子大、善福寺公園を歩く

日 時 12月11日(水) 午後1時

集合場所 JR西荻窪駅改札外 北口

1月例会

山手七福神を歩く

日 時 1月7日(火) 午後2時

集合場所 JR目黒駅改札外(恵比寿より)

2月例会

下町、浅草を歩く

日 時 2月18日(火) 午後1時

集合場所 JR浅草橋駅改札外 秋葉原側

3月例会

ニヶ領用水を歩く

日 時 3月18日(火) 午後1時

集合場所 JR南武線久地駅改札外

以上、小雨実施です。参加される方は下記まで連絡をお願いいたします。

牧野連絡先 携帯 090-9649-6868

ウォーキング部会長 牧野武夫

麻雀部会

(1) 目黒区、世田谷区、大田区、3区親善麻雀大会を10月26日(土)渋谷「スリーハンドレッド」にて開催。

(2) 12月8日(日)第51回目黒稲門会定例麻雀大会が武蔵小山「サン」にて開催されます。皆様奮ってご参加下さい。大会後「井門」にて忘年会があります。

麻雀部会長 鶴野洋治

ゴルフ部会

去る10月23日(水)第33回ゴルフ部会を埼玉県のおおむらさきゴルフ倶楽部において開催しました。当日は20名が参加、心配された雨も降ることなく、まずまずのコンディションで1日気持ちよくプレーできました。

今回は新ペリア方式から従来の持ちハンデイ方式に戻し、新ハンデイキャップの下でプレーした結果、優勝吉本政治、2位千野逸平、3位安居院文男の新しい顔ぶれ3氏の受賞となりました。パーティーや、車中の飲み会も盛り上がり楽しい1日になったと思います。

「100を切る人は全ゴルファーの10パーセント、90を切れる人は5パーセント程度に過ぎない」と言われています。

今回は来春4月23日(水)、栃木県の鹿沼カントリー倶楽部で開催を予定しています。10パーセントもしくは5パーセントの仲間入りを目指して頑張りましょう。奮ってご参加ください。



ゴルフ部会長 大杉邦雄

俳句部会

第57回 萩句会報告

日時 10月18日(金) 14時～17時

(順不同)

川井 素山	また一つ老舗生地屋の消える秋
保井 寶正	朝摘みし書斎の卓の萩こぼれ
牧野 里山	カサコソと落葉の径は閑かなり
青木 英林	水澄むや都会の川に鯉の群れ
後藤 克彦	銀色の芒の穂揺る城の跡
丸山 酔宵子	秋フェスタピエロにはしゃぐ子供かな
佐久間 喬	ほうぼうと炎をまとう秋刀魚かな
永井 正孝	水澄みて川面の雲かげ流れ行く
吉田 啓悟	秋晴の青さ映して潮だまり
安藤 虎酔	子供らは萩のトンネル汽車ごっこ

(参考)

佐藤 喜仙 連山の明浄にして水澄めり

俳句部会長 佐藤喜孝

グルメ部会

グルメ部会では、恒例の新そば会を会員の堀井良造さんのお店、麻布十番の「更科堀井」で9月26日（木）と10月1日（火）に開催しました。

今年のメニューはそばづくしです。午後6時30分に開会し、堀井さんご提供のビールで乾杯したあと、前菜3点盛り、お椀代わりのきのこそば、そば寿司と進むころには日本酒の注文も相次ぎました。更にそばがき、小海老と三つ葉のかき揚げにもりそばと続き、締めは珍しい菊切りそばでした。おそばに菊の花を練りこんだものです。おそばのお代わり自由ということで、もりそばや、名物の更科そばを頼む会員も多くおられました。

そばづくしで新そばを堪能した皆さんは大満足で、また来年を楽しみにして、午後8時30分過ぎに散会しました。参加者は9月26日（木）が16名、10月1日（火）が18名という盛況でした。



グルメ部会長 猪名川一雄

囲碁部会

① 8月は例会が休会でしたが、9月2日（月）、10月7日（月）の例会は、いずれも11名の参加者でした。何人かの方にはいつもの様に会場作りを手伝っていただき、1時ごろから対局を開始、5時半まで目いっぱい楽しませておりました。

② 9月は校友会関連の行事がいくつかありました。

9月8日（日）は、1日からの防災週間最終日で、両国の東京都慰霊堂前で、関東大震災90周年に当たり犠牲者の慰霊と、人の輪を広げて万一の時に助け合う気持ちを発揚させるため、634面（むさし）打ちの囲碁大会が企画され、目黒稲門会からも5名が参加しましたが、対局直前から生憎の大雨にたたられ残念ながら中止になってしまい、帰りは両国駅の近くで残念会をして散会しました。

9月29日（日）は、第13回稲穂囲碁大会が市ヶ谷の日本棋院で54名が参加して行われました。無差別

級、およびA～Fの7ブロック（1ブロック8名の構成）に分かれて4局を戦い、それぞれのブロックで覇を競いました。目黒からはA,D,E,Fブロックに合計6名参加し、それぞれ大健闘でした。帰りは近くの居酒屋で定例の反省会をして散会しました。

③ 10月20日（日）の稲門祭には今回から囲碁コーナーが設けられ、校友である日本棋院の下坂美織二段を招いて指導碁多面打ちが2回戦行われました。15名が指導碁に挑戦しました。目黒からは保井さんと大久保が指導碁を受けましたが、さすがに「プロは強かった」でした。当日は生憎の土砂降りにも拘わらず室内のため、指導を受けないで互いに自由対局をされた方を含めて20数名が参加され盛況でした。

囲碁部会長 大久保健治

美術・歴史鑑賞部会

第43回の鑑賞会は、9月4日（水）東京都美術館10時30分入口集合。「ルーヴル美術館展—地中海四千年の物語」を鑑賞しました。

「ルーヴルの女神 来日!」のキャッチフレーズのアルテミス：信奉者たちから贈られたマントを留める狩りの女神・通称ギャビーのディアナ（100年頃・大理石）に魅了。その他に、彫像（前30年頃）イシス女神の姿で表されたエジプト女王クレオパトラ7世（ブロンズ）も印象に残りました。

ランチは参加者15名で上野精養軒に。



第44回は10月9日（水）東京藝術大学美術館での「国宝 興福寺仏頭展」を12名で鑑賞。「白鳳の貴公子」と呼ばれ、日本を代表する仏教美術として高く評価されている国宝・興福寺仏頭（薬師如来像）を中心に国宝「板彫十二神将像」等、国宝25点、重要文化財31点素晴らしい傑作が勢ぞろいでした。調布市にある深大寺の重要文化財である白鳳仏等も特別陳列され、見どころ満載の展覧会でした。

美術館2階のミュージアムカフェでランチを堪能（大変美味しかったです!）しました。

美術・歴史鑑賞部会長 後藤克彦

旅行部会

旅行部会は1泊2日の旅行を年2回実施する事を原則に運営し、これまでに23回の旅行を行っております。今年は1月の「厳冬のオホーツク旅行」と10月の20年に一度の遷宮の儀が行われた「伊勢神宮」の旅行を実施いたしました。特に今年は従来の目黒稲門会のみ専用バスによる単独旅行に代えて、クラブツーリズムの旅行を買い取りでの混乗旅行とし、専用バスでの料金リスクを避け、低料金で内容充実の旅行を実施することが出来ました。

「伊勢神宮の旅」の旅行記をご報告いたします。



10月14日(月)午前8時34分品川発の新幹線に大野会長ご夫妻をはじめ15人の参加者が乗車し、旅行がスタートしました。車中クラブツーリズムの女性添乗員さんと合流し、旅行団46名の大所帯は豊橋で下車し、名鉄バスに乗り換え車中で弁当を摂りながら伊勢を目指しました。

最初の訪問地は伊勢外宮の入り口脇にある「豊川茜稲荷」となり、我が星野先輩が最長老として団を代表し清祓正式参拝となりました。その後、20年に1度の式年遷宮の資料館「せんぐう館」を見学しました。お伊勢参りは「二見浦と夫婦岩」での禊ぎからはじまります。夕食は松坂まで戻り「松坂牛鍋」を取り、7時半過ぎに「ルートイン松坂」へ入り、全員(ご夫婦も)1人部屋の宿泊となりました。

2日目、朝食後専用バスでのお伊勢参りの始まりです。伊勢神宮・外宮、伊勢神宮・内宮と参拝し、11時過ぎより「おかげ横丁」での昼食時間を兼ねた約2時間の自由時間となりました。

お天気は生憎の雨空でしたが、厄落としを済ませたの清々しい時間となりました。午後は更に大雨となりましたが、お伊勢参りの最後に相応しい「朝熊山金剛証寺」を見学した後、再び豊橋への3時間のバス旅となりました。「こだま676号」に乗り品川着20時58分。台風に追いかけられましたが、全員無事に解散しました。お疲れ様でした。

旅行部会長 井村正陽

早稲田スポーツ観戦部会

六大学野球秋の早慶戦応援観戦会

11月2日(土)、今シーズン成績の低迷している早稲田野球部を象徴しているような、今にもポツポツと振り出しそうな曇天の神宮球場に会員14名と応援観戦に行きました。早稲田祭と日程が重なったこと、神宮の他の施設でラグビー、サッカーの大きな試合が開催されていたこと等も影響して、伝統ある早慶戦としては観客動員数がやや寂しく感じられました。

試合は3回と5回、2番重信の2本のタイムリー2塁打により2点を先行した我が早稲田がエース有原の1安打完封の好投により2-0にて勝利しました。

試合後半に降り始めた小雨も試合終了後の校歌斉唱の頃には上がり、勝利の余韻に十分に酔いしれることが出来ました。



翌日の2回戦も期待の吉永の好投で9-2で快勝し、リーグ戦3位で終わることが出来ました。今年のレギュラーは4年生が少なく、来年は現在のレギュラーが殆ど残留するので優勝の期待が持てるチームに成長できることと楽しみにしています。

神宮球場を背景に記念写真を撮影したあと、青山にあるスポーツ居酒屋で祝杯を挙げ、真に強い早稲田の復活を願いながら会員同志の懇親を深めました。

学生スポーツを通じ、いつまでも若さと情熱を維持し続けることを願っている早稲田スポーツ観戦部会への積極的な参加をお待ちしています。



早稲田スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

会員の広場

私とアメリカンフットボール



川井信義（昭和32年 政経）
我が国で大学生によるアメリカンフットボールの試合が行われたのは昭和9年明治神宮外苑競技場での早立明3大学のものが初めてであり、早稲田大学アメリカンフット

ボール部（正式登録は米式蹴球部）は今年創部80周年を迎えます。

振り返りますと、私が麻布中学2年の頃あの独特の米型のボールの魅力に引かれ、神津善行（作曲家）先輩他からタッチフットボールの手解きを受けて以来、中学・高校の5年、早稲田に入り念願の本格的アメリカンフットボールを始めて4年、計9年間の選手生活を送りました。

大学の練習は東伏見のグラウンドで、夏の合宿は福島県二本松・岳温泉の「あづま館」と決まっておりました。毎日走り、投げ、蹴り、タックルと、或る時はボールに石灰をぬり、日が暮れてからも汗と泥にまみれて練習に励んだことを思い出します。

選手生活で一番辛かったのは1年の時で、体力が出来ていないため練習について行くのがやっとだった事と午後の授業が受けられない悩みでした。新人の頃は体重が56kg程度しかなく、その後68kg迄増えたものの軽量の方で苦しい思いをしましたが、若干足が速かった(12秒台)のとポジションがQB(クォーターバック)だったのでなんとか脱落せず頑張ることが出来ました。1年の新人は西武線高田馬場12時3分発の電車に乗るのが決まりで(2年以上は1時3分発)一足早く東伏見に行き、部室の防具等を干し、球を磨き、グラウンドの石灰線引き等の準備をしなければならず、午後の講義には全く出られませんでした。勉強は一生するもので運動は若い時しか出来ないものだと言う上級生の言葉に乗せられ、夏期講習で政経学部と全く関係のない心理学などの単位をとり、やっと卒業したのが正直なところです。

前述しました通り我が部は創部以来、二本松・岳温泉の町営グラウンドで夏の合宿を行ってきました。合宿は10日間で前半は体力強化が主で、後半は秋のリーグ戦に備えプレーフォーメーションの練習が加わります。1日の練習は午前(9時~11時)午後(2時~5時)の2回で、とにかく良く走り良く投げました。1年の頃は昼食後の小1時間の休みを貪る様に寝、夜も9時の就寝時間を待たず蒲団にもぐりこんだものです。雨の日は練習がない代わりに100以

上あるフォーメーションの勉強があります。ポジション毎に自分の役目を覚え、同時にプレー全体の狙いを理解せねばならず、これがなかなか大変でした。

運動選手はどんな競技でも1年の夏の合宿を乗り越えれば合格で、春からの1年間の練習でいわゆるスポーツマン心臓が出来上がり、幾ら走っても大丈夫な体になります。と同時に、その競技に対する理解度も深まり面白くなって行くものです。私も1年の合宿を終え秋の練習に再び東伏見へ行った時は体力的に自信が付き、アメリカンフットボールが或る程度分かった気持ちになった事を覚えております。

2年から3年になると体力を持て余すようになり、酒と夜遊びを覚えるのもこの頃であります。私も昔の渋谷の恋文横丁や大和田町の夜のネオン街を徘徊したものです。我が部は春に関西大学との定期戦があり、1年置きに関西遠征があり花園競技場で試合を行いました。後は京都で遊ぶことが多く、宮川町の色街に足を入れたこともありましたが、今は懐かしい思い出となっております。

昭和28年~31年間の関東大学リーグは2部制で、早稲田は1部(立・日・早・慶・明・法・学習)で健闘しましたが、立教・日大の圧倒的に強い時代でした。早稲田のリーグ戦の成績は3位~5位の処で、それほど強くはありませんでしたが、私は2年から卒業まで毎年「ライスボウル」(東西学生選抜対抗戦)に選ばれた他「西宮ボウル」「対極東米空軍親善試合」に出場するなど、まあまあの選手として努力して来たと思っております。

齢80才を目前に当時を思い起こします度に、4年間早稲田に学び運動部に籍を置き青春を謳歌する事が出来、つくづく幸せだったと思っております。



アサヒグラフより：昭和30年4月29日、早慶対抗定期戦。早大QB川井が敵のタックルをジャンプしてかわし進撃するところ

高齢者夫婦の南米大陸周遊4万キロ（後編）

市瀬達夫（昭和34年 法）

市瀬一江（昭和37年 教）

後編は人類が住む地球最南端の街ウシュアエアからスタートです。ここは南米大陸と地続きではなくフェゴ島にあり、この島の州都となっている。アルゼンチンに属し人口約7万人で街全体が免税であるため、観光客も多く活気があった。

首都ブエノスアイレスまで3850km、南極大陸の方が近く（1000km）、背後は1500m級の雪峰でアンデス山脈の端とのことである。南極クルーズの出発港にもなっていて、1000km先の「昭和基地」へ思いを馳せていよいよ「荒海の魔境」ホーン岬と対面する事になった。

無人島故接岸はできず、洋上からのクルーズのみ。加えて悪天候に見舞われ、ビデオと共に説明を聞きながら、かすかに霧に覆われた岬の先端424mの山の頂上を見て、世界最速といわれるホーン海流の荒海に別れを告げた。国際水路機関（IHO）に岬を通過する経線が記され、太平洋と大西洋の境界が定められているそうである。

ドレーク海峡を後にし船は大西洋を北上、3月5日、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスに到着。この国は日本の7.5倍の面積と約4100万人の人口で、この街は南米第3の都市。ラ・プラタ河に面し、欧米系移民が多く、「南米のパリ」といわれる美しい街だった。

独立当時は「偉大な田舎」と言われた小さい町だったようだが、「欧州文明化政策」等により多くの移民が渡来し、欧州化して行くことになったのだろう。確かに黒人の数が少ないようだった。ピンク色の大統領府、世界3大劇場の一つ「コロソ劇場」など大きな建物も多く、おしゃれなブティック・レストラン等が並んでいてシャンゼリゼ通りかなと錯覚を起こしてしまいそうだった。しかし一歩横路に入ると中心部とは全く異なり暗く汚れたところも多く、どこの街も表と裏があるのは仕方がないが、街で見かける現地の人々は割りと穏やかで、両手にたくさん買い物袋を持ち、笑い声も多く、平和なのだと感じた。また物価は安く、この国の食料自給率が200%と聞き本当に羨ましかった。

さてアルゼンチンに来て、「タンゴ」についていろいろと聞かされたのでお知らせします。このリズムはブエノスアイレス生まれで19世紀後半から20世紀初頭にかけて発展したと言われ、キューバのハバネラ、ヨーロッパのワルツ・ポルカ等が混じり合って出来上がったと言われている。積極的な移民政策により欧州系移民が多く、成功した者、失敗した人々がそ

れぞれの祖国への思いを歌で表したとされ、バンドネオンの音色とも一緒になり独特のセンチメンタリズムを生み出し哀愁のアルゼンチンタンゴになったと言われている。

ブエノスアイレスでイグアス観光組とそのまま船でブラジル組とに分かれ、私達は空路イグアス経由リオデジャネイロのコースを選んだ。世界3大瀑布の一つとされ、このうちナイアガラ・ヴィクトリアを経験していたので、最後に残したのがイグアスだった。国立公園になっていて観光用の小さな列車に乗せられ公園内を周遊したが、温度と湿度の高さに閉口した。全体として森林も道路も整備されていて、世界中から多くの人が集まって来るようだった。

ルーズベルト大統領夫人の言葉「ナイアガラが可哀想」の一言に表わされている如く、面積・水量全てに亘り世界一の滝と思われる。少し歩くだけで全身ずぶぬれの状態で眼鏡は何の役にも立たなかった。



（イグアスの滝）

帰路は夜間飛行となり、リオデジャネイロ（人口約700万人）の夜景は美しく輝いて見えた。但し赤い灯・青い灯は少なかった。ガイドの説明によればリオの夜景は全て「とう電です」とのこと。なんだかさっぱり分からなかったが、この街では「盗電」が日常的であり、街としてインフラ整備の費用がないために黙認しているとの事で、夜景のライトの半分以上がスラム街の「盗電」によるものと聞きまたまた驚き…。ただリオのスラムは他国で見てきたものとは違って、エジプトの日干し煉瓦の家々やケープタウンのブルーテントのスラムよりもずっときれいで、小高い丘から緩やかに下方に連なり、日当たりも割りとよく、どのスラムも一つの街が形成されていた。スーパー・学校・銀行等もあり、この中での生活に人々が満足？しているのかもしれない。しかし「盗電」の実態はものすごく、白の壁の家々は黒い電線で埋められ、遠くから見ると黒い壁の家に見えた。水道も「盗水」であるとのこと。

かの有名な「リオのカーニバル」はブラジル人ならばだれでも参加するものと思っていたがそうでは

なく、スラムの人々の祭典であることを初めて知らされ驚いてしまった。スラムの人々が1年間懸命に働き貯えたお金を全部使って衣装等を整えて参加するのだそうだが、立ち寄った祭典場はきれいに整備され観客席も立派なもので、世界中の人々が沢山訪れているようだった。ブラジルにサッカーとカーニバルがある限り暴動は起きないと言われていたようで、不満や不平を発散する場所があるため平和が保たれていると言うことか…。

ブラジルは日本の23倍の国土と2億人の人々が住む人種の「るつぽ」と言われ、殆んど移民で構成されているようで日本人も多く、2世・3世といった人が暮らしていて日本との関係は良好であるとのこと。3kmのコパカバーナの海岸線やコルコバードの丘から見たリオの街は非常に美しく、天然の良港に恵まれ、一度は訪れたい場所だったので十分満足出来ました。



(コルコバードの丘よりボン・デ・アスカール)

リオを出航後次の寄港はブラジル北東部最大の街サルバドールで、4番目の都市だったがリオと比べると圧倒的に黒人が多く、これは砂糖貿易の貴重な労働力としてアフリカから連れてこられた黒人たちで、新大陸初の奴隷市場も設けられ、人が物として売買され重労働を課せられたようである。植民地の面影を残す建造物が多く、「黒人のローマ」とも呼ばれ活気に溢れ、美しいリゾートエリアもあり、ブラジルを知るためには是非とも訪れたい街だ。

ブラジル最後の寄港地も波とうねりのため接岸出来ず、再度赤道を通過して船は南米大陸を後にしカリブ海へと入り、最東端の島バルバドスに着岸、下船となった。中心はなだらかな丘陵地帯で最高地点は314mあり、川は1本もないが農作物の生産性は高く、首都ブリッジタウンはイギリス人の入植後他国に領有権が移ることなくイギリス式に発展した島の為「リトルイングランド」とも呼ばれ、街の中心にはネルソン提督銅像などもあり、小さな時計台はロンドンのビッグベンによく似ていた。ショッピングタウンもきれいで、日本のおじいさん・おばあさんのつかの間の「カリブの休日」でした。



(カリブ——リトルイングランド)

そしていよいよ今回のクルーズ最終寄港地アンティグア島に入港した。365のビーチがあると言われる美しいエメラルドグリーンの海に感動した。アンティグアとバーブダの2島からなり、両方で日本の種子島と同じくらいの面積で人口は9万人弱（黒人90%）の小さい島だったが、そこに住む人々の笑顔、礼儀正しさ、治安の良さ、知的水準の高さ等にびっくりした。ガイドの説明によればほぼ100%の子供たちが義務教育（5才～16才）をしっかりと終了しているとのことだった。どんな所でも教育が最も必要であることを痛感した次第です。ガイドが自国の国歌を歌ってから我々に「日本の国歌を歌って下さい」との要求があり、「君が代」に抵抗のない世代ばかりだったので大きな声で「君が代」を歌いながら、改めて日本について考えてみました。

最後に、この国で私が経験した素晴らしいエピソードを書きます。実は私の不注意でカメラをバスの中に置き忘れ、下車してからそれに気づきましたが時すでに遅く、バスは見知らぬ町へ帰った後でした。50日間の旅の思い出を全て失うことになり途方に暮れて落ち込んでいたら、船のフロントにカメラが届けられていることを知らされ非常に感激しました。

カリブでの様々な思い出とともに北米大陸近海を北上し、一路ニューヨークに向け航行…。3月23日早朝、目覚めと共にカーテンを開いてびっくり…。目の前で朝の太陽と自由の女神に対面出来て、どんなプレゼントより嬉しかった。しかし、多数の客の下船手続きに時間がかかり、空港までの所要時間を計算すると離陸には到底間に合わず、それでも早く日本に帰りたいだったので、全員空港では口も利かず唯ひたすら空港内を走り続けた。幸いにも日本の飛行機だったため1時間半遅れでtake off。シートベルトを着けた時は頭の中は真っ白で、供された和食に涙が出てメニューもわからなかった。

帰国後一息ついてから、2カ月の旅を大過なく終えたことを2人で祝福した次第です。

ようこそ！部会活動へ

早稲田スポーツ観戦部会へのお誘い

早稲田スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

平成25年7月正式に部会として発足した当部会は、早稲田大学の各種スポーツ観戦を通じて母校を応援し、会員相互の親睦を深めることを目的としています。

年間の主な予定は春の早慶レガッタ、アメリカンフットボール早慶戦、春秋六大学野球早慶戦、早明ラグビー対抗戦等です。今後は皆様の意見を取り入れながら新しい企画も考えていきたいと思っています。

学生選手の活躍を身近で応援することは健康維持と老化防止にも必ずや役立つと思いますので、会員の皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。



校友会便り

2013稲門祭を終えて

笠谷興一郎（平成18年 文）

2013稲門祭が開催されたのは、10年に一度の強さともいわれ、甚大な被害をもたらした台風が去った後だった。

稲門祭史上まれに見る雨。東西線の早稲田駅から小走りに大隈講堂を目指す。目黒稲門会の安藤さんと私は大隈講堂前・記念品販売本部の担当だ。朝の講堂は細雨に濡れている。聞くと雨の稲門祭は11年ぶりとのこと。例年なら晴れた庭園で曲水を眺めながら一杯やる目黒の先輩方も、大隈会館の楠亭でゆっくり過ごされたようだ。

私は大学を出て7年が経つ。目黒稲門会の先輩方からすると「たった7年」なのだが、この間に私の中で早稲田大学の風景はめまぐるしく変わっていった。変わっていったというのは心の情景である。もちろん、2007年の125周年のために物理的にも大学

は大きな設備投資をしたから、キャンパス内の風景は大きく変貌を遂げている。しかし、心の中にある変わらない母校というものが誰しもあると思う。

私の場合、卒業した4年後に再び職員として大学に戻った。外から見れば暖かい心のふるさつである常磐の森も、中に入れば甘いものではない。私学の雄たる早稲田大学ともなれば、大陸間の視点から知的インフラの拠点として、内外に早稲田の教旨を戦略的に展開していかななくてはならない。グローバル化、少子化の進展、大学間の競争など、大学運営の現場は極めてシビアだ。純粋に学問と向き合う学生と楽しく歓談しても、デスクに戻ってセクショナリズムの中で意思決定に悩むのが億劫だったこともある。

大学を離れて、大隈講堂は少し違って見える。思えば、私はいつも大隈講堂にどこか引け目を感じてきた。16歳の夏、Z会の模試で来た早稲田。初めて見上げた大隈講堂は大変な大きさに立ちはだかっていた。大学に入ってからの大隈講堂は敬遠の対象になった。少なくとも当時の私には、インテリの屈折した自意識を丸出しにしてバカを演じる同期がやりきれないものに映ったからだ。職員だった頃の大隈講堂は優しさと哀しみの権現。今は理想の光であり、影である。講堂は無言のうちに「初心忘るべからず」と戒めてくれる。

一緒に当日の販売を手伝ってくれた学生の中に車椅子の女の子がいた。文化構想学部という。私からすると出身学部の後継学部にあたる後輩だ。最近は現役学生や新卒の後輩が無条件で可愛い。これから私を成長させてくれるのは後輩の彼らなのだ。

早稲田の「ワ」は、一人ではできない。

HP便り

スマホでホームページ（HP）をご覧になる場合、目黒稲門会HPの最下部にあるQRコードをスマホで読み取ってご利用願います。

編集後記

11月2日（土）、久しぶりに早慶戦を見に行った。斎藤祐樹選手のいた頃の華やかさはなくなったが、如何にも学生野球らしい雰囲気を感じられ、なかなか良かった。

斎藤選手の在学中は、切符を買うのに苦労しながら学友達と夫婦連れで観戦していたが、今回は7月に発足した早稲田スポーツ観戦部会の一員として応援した。試合後の飲み会もあり倍楽しかった。

50年程前の秋の早慶戦のあと、7、8人で早稲田ベンチに入り込んで撮った写真がある。どうやってそんなことが出来たのかは全く忘れてしまったが、思い出の一枚である。（地田 記）